

## 八戸地域の朝市や祭りにみる心理的ストレス対処の様式

○畑山 俊輝・深澤 伸幸・金地美知彦  
(八戸大学人間健康学部)

キーワード：八戸地域，ストレス対処，伝統行事

「やませ」に悩まされてきた厳しい自然環境の中で生きる人々の知恵を，伝統的な芸能や朝市の中に探る試みを行おうとしている。これはまた，そのような環境が生み出す寒さストレスや個人が抱く心理的ストレスにどう対処してきたのかを探る試みでもある。

本研究ではさしあたり，次の3つのアプローチを試みる。第一は，主として冬の生活を支える意識的要因の探求である。次いで，この地域の冬の伝統芸能である「えんぶり」を取り上げ，これを盛り上げる囃子方の効果を探る。さらには，地域の食を支えてきた朝市の現在を探り，その果たしてきた機能的側面を明らかにしようとしている。

### I. 冬の生活を支える意識的要因の探求

#### 方法

参加者：大学一年生43名，大学三年生51名の協力を得た。前者と後者は日を変えて行ったので，分析は別個に行った。

質問紙調査票の構成と手続き：質問紙は30項目からなる八戸の生活に関係する設問である。大学生には，八戸での生活について，主として冬の季節をイメージしながら，どの程度そう思うか5段階尺度上に回答するよう求めた。

#### 結果

2つの群の評定得点を個人毎に算出し，30項目それぞれの平均値と標準偏差を求めた。評価について個人差が大きいのは，否定的評価の高い項目，すなわち，公共交通機関の利用，朝市の利用に関するものであり，これに次いで伝統芸能についてであった。肯定的評価の高い項目

は，気候を除けば，スーパーの利用，携帯電話，自家用車，衣服に関するもので，いわば現代人の生活の特徴を表している。

### II. 「えんぶり」の囃子方音楽の効果

#### 方法

参加者：大学生44名が参加した。うち2名はデータ不備のため処理から除外した。

刺激曲：「えんぶり」の囃子2曲と，比較のためバロック音楽から2曲（Rameauの雌鳥とBach, SのBadinerie）を使用した。

印象評定票の構成と手続き：印象評定票はSD法による全21項目の七段階評定尺度であった。21項目目には，全体評価項目を追加した。刺激の提示には参加者が聞きやすい音量で刺激提示した。テスト試行では，雌鳥，えんぶり1，Badinerie，えんぶり2の順に評定票への記入を求めた。

#### 結果

項目毎に基本統計量と変動係数CVを算出した。これにより，項目毎の特徴の分析を行った。また，刺激曲間の類似度を分析した。「えんぶり」の曲同志に有意な相関が認められたほか，Badinerieも「えんぶり」囃子と関連した（えんぶり1との間では， $r=.514$   $p<.05$ ；えんぶり2との間では， $r=.425$   $p<.10$ ）。これらの曲はRameauの雌鳥と異なり，肯定的評価がなされていた。

### III. 陸奥湊朝市の機能的意義

#### 方法

参加者：朝市の出店者は年齢が46歳から79

歳までの11名。印象評定は大学生44名を加えた。

朝市質問項目および印象評定票の構成と手続き：面接時に問う12項目の朝市関連質問票を作成した。次いで、4項目から成る、SD法による七段階の朝市印象評定票を用いた。該当するヶ所を出店者には質問項目を読み上げて回答を求めたが、大学生には評定票に直接記入してもらった。

#### 結果

朝市質問項目により、項目毎の特徴の分析を行った。この項目分析から分かったことは、朝市の出店だけでは生活が成り立たないにもかかわらず、人との交流や楽しみを求めて出かけてくることである。また、印象評定票の結果からは、全体としての朝市に対する印象が出店者と大学生との間に違いはないのに、その結果に寄

与している項目に違いがあった。重回帰分析の結果から出店者では「楽しみ」の正の評価が、大学生では「改善」の負の評価が大きい影響を及ぼすことが分かった。

#### 全体的考察

これまでの資料の分析はまだ中間段階にあり、詳細は今後明らかになるものではあるが、これまでの結果からでも、地域の人々が寒い厳しい状況の中で、それに対処するために少しでも居心地のよい楽しみを求める術を身につけて生活してきていることがうかがえる。今後は地域の文化的な活動から、現代の人々がもっと学び取るべき事項を描き出していきたい。

資料収集にあたり、学部生の尾崎晴美・小泉恵理・内澤康友の3人の卒論研究の一環として協力を得た。